

下水道公社だより



しずくちゃん

- うつくしま 未来へつなぐ 下水道 -



すいてきくん

2004年 4月号

目次

平成16年度を迎えて
本年度のISO14001への取り組み
公社定期人事異動について
大滝根水環境センター事務所開所

平成16年度を迎えて

財団法人 福島県下水道公社
理事長 平井 良一

平成16年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

緊迫度が高まる国際情勢の中で、国内及び地域経済は回復の兆しはあるものの依然として厳しい状況が続いています。

そのようななかで、当公社は、昭和63年4月の設立以来おかげさまで順調に推移し、福島県より受託しております阿武隈川流域下水道の維持管理業務、汚泥溶融施設の維持管理業務をはじめとして、下水道に関する各種調査研究、技術者の養成、普及啓発、公共下水道事業等の相談業務及び設計・監理受託業務、下水道排水設備工事責任技術者資格認定登録業務等多岐にわたる事業を展開してまいりました。

平成16年度におきましては、大滝根川流域下水道大滝根水環境センターが新たに稼働いたしました。これら施設の適正かつ円滑な運営と良好な水環境保全に努めるとともに、公共下水道整備事業等の相談業務等、特に、平成16年度の最重点施策事業として、1つには、水洗化率向上のため市町村の方々

とともに下水道普及啓もうの全県的なPR活動を、2つには、下水汚泥の有効利活用調査を、3つには、良好な水質管理の安定化を推進してまいりる所存であります。



従来から掲げております当公社の基本理念であります、「顧客主義」、「現場主義」、「全員が経営者」、「PDCAサイクル主義」、「日々新たな進歩」の5つの理念を基本に、平成16年のテーマである「もう一度見直そう それはあなたが鍵です」を公社職員一丸となって実践し、ISO14001に則り、経費の軽減に努め、安全・安心な施設維持管理と安定的な経営を目指して、下水道利用者に還元することとして、当公社の設立目的である本県における下水道に関する総合センターとしての役割を今後とも担って社会的責任を果たしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本年度のISO14001への取り組み

当会社では、自然と調和した快適な水環境を将来の世代に継承する責務を認識し、職員一人一人が地球環境の保全と汚染の予防に努め、人と自然が共生できる持続可能な社会の実現に貢献することを目指して活動しております。

平成15年度の環境目的・目標の取り組みについては、目標値を設定して取り組んでまいりました。その結果は次表のとおりです。

平成15年度環境目的・目標監視測定結果

環境目的	目標値	実績値	目標値比	達成度
1. 電気使用量の削減(kwh/流入量)	0.423	0.380	89.8%	適合
2. ガソリン使用量の削減(L)	7,630	8,514	111.6%	不適合
3. コピー用紙使用量の削減(枚)	533,000	443,000	83.1%	適合
4. 汚泥処分量の減量化(t)	6,614	5,482	82.9%	適合
5. 放流水水質自主基準 (BOD=15mg/L SS=30mg/L)	達成率： 県北75%、県中92%、あだたら100%			

監視測定の結果、ガソリン使用量を除いて概ね目標を達成することができました。

ガソリン使用量が目標値を達成できなかった大きな原因は、年度当初に会計検査があり、市町村工事の受験立ち会いで、出張回数が増加しました。また、終末処理場施設の工事管理業務が増加したこともあり、業務執行上、やむを得ないものでありました。

本年度は、環境マネジメントシステムに取り組んで3ヶ年が経過し、当初の環境目的・目標の取り組みも15年度で終了したことから、環境方針を始め環境側面及び環境目的・目標をすべて見直し、見直した環境方針に基づきシステムの運用を行っていくこととしております。

見直した環境方針は次のとおりです。

環 境 方 針

《 基本理念 》

財団法人福島県下水道公社は、自然と調和した快適な水環境を将来の世代に継承する責務を認識し、職員一人一人が地球環境の保全と汚染の予防に努め、人と自然が共生できる持続可能な社会の実現に貢献することを目指して活動します。

《 活動指針 》

1. 環境に与える影響の中で、次の項目について活動し、環境影響改善と資源の有効利用に努めます
 - (1) 水環境保全のため、良好な水質の確保に努めます
 - (2) 省資源・省エネルギーに取り組みます
 - (3) 廃棄物の排出量を削減するため、リサイクルの推進に取り組みます
 - (4) 事務用品の調達に際し、「グリーン購入」を推進します
 - (5) 水環境保全についての、普及促進に取り組みます
2. 環境マネジメントシステムを維持し、継続的な改善と汚染の予防に努めます
3. 環境関連の法規制、協定等を遵守し、環境汚染の防止に努めます
4. 環境目的・目標を定めて、環境活動を展開し、内部監査の実施及び経営層による見直しを行います
5. 環境方針は文書化し、全職員に周知して実施し、維持します
6. この方針は、誰もが入手できるようにします

平成16年4月1日

財団法人 福島県下水道公社

公社定期人事異動について

平成16年度下水道公社定期人事異動(4月1日付)があり、次の方々が新たに着任しました。

【本社 役員】

常務理事 芳賀修二

(前：会津若松建設事務所長)

皆さんこんにちは。

地元でもあったことで会津に居て朝がゆったりとして出勤することが出来た一年でした。

さて下水道行政を離れて二年となりますが

(私が下水道をタッチしていた期間は平成9年～平成13年) 当時は水環境に対する考え方が大きな話題となり、市町村の活発な予算の要求や地域のニーズが大きな原動力となり、下水道費の予算も高くなり管渠・水処理施設の建設(増設)を必要に対応しながらスピードを上げていった時代でした。

しかし急激な変革の時になっている日々の中、下水道事業建設と同時に管理施設の水処理の動きについて内外に良く周知をすることで下水道の役割、水環境に対する理解を地域の人たちと一体となりながら取り組みをしていくことが最も大切な事だと思っています。

下水道公社の業務を通して関係各位の皆様の理解を得ながら頑張っていきたいと思っていますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。



総務課の業務としては、規程、組織、決算及び経理及び現金出納・保管、事業の受託・委託及び入札、物品調達及び管理等多岐にわたっておりますが、基本的には、公社の直接的業務を支える間接業務を担うセクションと認識しております。

本社内及び各センター間の連携を密にして、相互に共通認識をもってよりの確な業務執行のために貢献できるよう努めてまいりたいと思いますので、皆様のご協力、お力添えをお願いいたします。

【あだたら清流センター】

所長 伊藤俊一

(前：県北建設事務所建築住宅G課長)

四月に「あだたら清流センター」にまいりました。どうぞよろしく願いいたします。

この地区は私が生まれ育った地域であり智恵子抄で有名になった智恵子の生家である「屋号：米屋」は母方の実家のすぐ近所で、従兄弟達とよく遊んだ場所でもあります。もしもこの造り酒屋が現存し、「花霞」があったなら味わってみたかったなと勝手なことを思っています。

「ふるさとは遠きに在りて思うもの」ということを常としてきた自分にとって、センターの窓から見える風景が今は情景となり、過ぎし歳とともに郷里に次第に近づいて来たのかなとため息とともに感じ入っている毎日であります。

当センターも稼働開始から満6歳となりました。今後は流入水も益々増大すると思われます。この水量の増加に対して処理水質の維持は勿論のこと、各機器の耐久性の向上と延命化等々当センターの機能が最大の力を発揮できるよう微力ではありますが正精進を行い、一位無位の真人として正思惟をもって業務に精進したいと思っておりますので、ご援助をよろしくお願い致します。

最後に、当地で素晴らしく、また実りのある時が過ごせるとよいなと心より願っています。



【本社 総務部】

総務部長 松川正敏

(前：リハビリテーション飯坂温泉病院事務長)

この度の人事異動により当公社勤務となりました。公益法人での勤務、業務内容である下水道につきましては初めての経験であり、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

公益法人は、社会全体の利益を目的とする法人であり、消費経済主体であるという特質を持ち、会計上は、官庁会計、企業会計と異なる面があるとのことですが、5つの経営に係る基本理念や年度毎のテーマ設定等による組織の行動理念や目標計画の掲示等、赴任して間もない者にとってもわかりやすく経営方針が掲げられているとの感想を持ちました。



【その他の異動等】

〔本社 総務部〕

総務課主事 小野 敏 幸（福島県住宅供給公社）

〔本社 業務部〕

企画管理課 課長 紺野 禎 紀（計画設計課）

主査 山岸 和 宏（計画設計課）

計画設計課 課長 鈴木 正 則（企画管理課）

技師 佐藤 圭 一

（喜多方建設事務所企画調査G）

〔県北浄化センター〕

技師 菊池 伸 仁（新規採用）

〔県中浄化センター〕

調査役兼次長 二階堂 一 郎（企画管理課）

技師 鈴木 哲 也（あだたら清流センター）

嘱託 中島 勝三郎（県中地方振興局）

〔あだたら清流センター〕

主査 小柴 高 実（県中浄化センター）

〔大滝根水環境センター〕

所長 小池 毅 （県中浄化センター所長兼務）

副主査 後藤 之 夫（会津若松建設事務所建築住宅G）

技師 松本 友 恵（県北浄化センター）



大滝根水環境センター事務所開所

平成16年4月1日に当社の大滝根水環境センターを開所しました。

大滝根水環境センターは船引町・大越町・滝根町・常葉町の4町、約1,102haから集められた生活雑排水等を処理する下水処理施設で、計画処理人口は、約22,600人、1日に処理可能な最大汚水量は、約12,900m³/日を計画しており、田村郡船引町春山地内に建設された施設です。

開所にあたり、平井理事長による式辞、佐藤県中流域下水道建設事務所長による祝辞に続き、中央監視室において遠隔操作による流入ゲート、汚水ポンプ、送風機、返送汚泥ポンプの動作確認を行い、式を終了しました。



大滝根水環境センターの供用につきましては次号にて詳細をお知らせする予定です。

財団法人 福島県下水道公社

〒960-8103 福島市舟場町2番1号 福島県庁舟場町分館3F

TEL 024-524-3510(代)

FAX 024-524-3513

Homepage:<http://www.fspc.or.jp>

E-mail:kikakukanri@fspc.or.jp

本誌の発行については、業務部企画管理課までお問い合わせください。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています